

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2008-136408

(P2008-136408A)

(43) 公開日 平成20年6月19日(2008. 6. 19)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
<b>A O 1 K 97/08 (2006.01)</b>	A O 1 K 97/08	3 B 0 4 5
<b>A 4 5 C 11/00 (2006.01)</b>	A 4 5 C 11/00	Z

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2006-325030 (P2006-325030)	(71) 出願人	000002495
(22) 出願日	平成18年11月30日 (2006. 11. 30)		ダイワ精工株式会社
			東京都東久留米市前沢3丁目14番16号
		(72) 発明者	染谷 京助
			東京都東久留米市前沢3丁目14番16号
			ダイワ精工株式
			会社内
		Fターム(参考)	3B045 BA00 DA44 DA49 EA03 EB10
			FC04 1A06

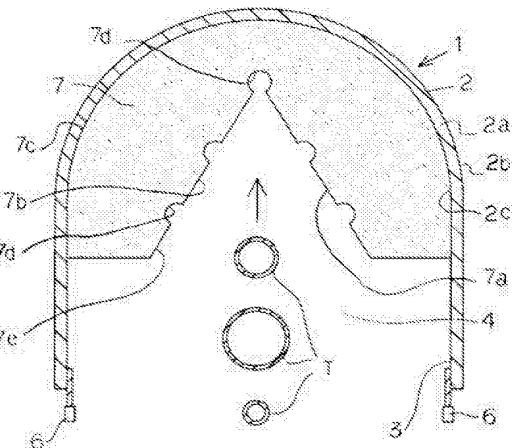
(54) 【発明の名称】 釣竿ケース

(57) 【要約】

【課題】 ケース本体内に設けたファスナーシート間に釣竿を介在させてファスナーを止着する竿支持体への釣竿の取り付け操作が煩わしいことであること。

【解決手段】 釣竿ケース1は、内部に釣竿Tの収納部4を備えた可撓性を有する筒状のケース本体2を有し、ケース本体2はチャック6、6で開閉可能な長手方向に延びる開口3を有し、ケース本体2の収納部4の内面2cには発泡材で形成され釣竿Tの狭持部7a、7bを有する釣竿保持部7が取り付けられ、ケース本体2の開口3の開閉に連動して狭持部7a、7bが開閉するようになっている。

【選択図】 図2



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

可撓性を有する板状の外装体を筒状にしてケース本体を形成し、前記ケース本体の長手方向にチャックで開閉可能な開口を設けると共に前記ケース本体の内面に前記チャックによる前記開口の開閉操作に連動して釣竿を挟持する釣竿保持部を設けたことを特徴とする釣竿ケース。

**【請求項 2】**

ケース本体の開口は開放方向に付勢されていることを特徴とする請求項 1 記載の釣竿ケース。

**【請求項 3】**

釣竿保持部材は、中央側に挟持部を有し、外側をケース本体の内面に取り付けられた発泡材であることを特徴とする請求項 1 または 2 記載の釣竿ケース。

**【請求項 4】**

釣竿保持部材は、挟持部に釣竿を配するための釣竿差し込み口をケース本体の開口側に設けたことを特徴とする請求項 3 記載の釣竿ケース。

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、ケース本体の内面に釣竿保持部を設けた釣竿ケースに関する。

**【背景技術】****【0002】**

従来から釣りをを行う時には釣竿を釣竿ケースに入れて破損しないようにして持ち運んでいた。

釣竿ケースに釣竿を収納すると釣竿ケースの中で釣竿が動くため、持ち運び中に不快であり、また釣竿が破損する虞があるため釣竿ケース内に釣竿保持部を設けることが提案されている。

**【0003】**

上記について特許文献 1 にケース本体内にシート状の剥離自在なファスナー面を有する竿支持体を備えた釣竿ケースが示されている。

この釣竿ケースによれば釣竿ケース内に設けたファスナーシートの上に釣竿を介在させてファスナーを止着することで釣竿を釣竿ケース内に支持することができ、その後、釣竿ケースの開口を閉じて持ち運ぶようになっている。

**【0004】**

しかし、このような釣竿ケースでは、釣竿ケース内の竿支持体への取り付け操作に時間が掛かり煩わしいという欠点があった。

**【特許文献 1】 実公昭 64-2629****【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

解決しようとする課題は、ケース本体内に設けたファスナーシート間に釣竿を介在させてファスナーを止着する竿支持体への釣竿の取り付け操作が煩わしいことである。

**【0006】**

本発明の目的は前記欠点に鑑み、ケース本体内に釣竿を簡単に保持でき、すぐに持ち運ぶことができる釣竿ケースを提供することである。

**【課題を解決するための手段】****【0007】**

上記課題を解決するために、

請求項 1 に係わる本発明は、可撓性を有する板状の外装体を筒状にしてケース本体を形成し、前記ケース本体の長手方向にチャックで開閉可能な開口を設けると共に前記ケース本体の内面に前記チャックによる前記開口の開閉操作に連動して釣竿を挟持する釣竿保持

10

20

30

40

50

部を設けたことをことを要旨とするものである。

請求項2に係わる本発明は、ケース本体の開口は開放方向に付勢されていることを要旨とするものである。

請求項3に係わる本発明は、釣竿保持部材は、中央側に狭持部を有し、外側をケース本体の内面に取り付けた発泡材であることを要旨とするものである。

請求項4に係わる本発明は、狭持部に釣竿を配するための釣竿差し込み口をケース本体の開口側に設けたことを要旨とするものである。

#### 【発明の効果】

##### 【0008】

本発明によると、釣竿ケースに収納した釣竿を容易に保持したり取り出したりすることができる。

10

#### 【発明を実施するための最良の形態】

##### 【0009】

以下、本発明の実施形態を図面に基づき説明すると、図1から図3は本発明の実施例で、図1は釣竿ケースの全体図、図2は開口を開いた釣竿ケースの拡大断面図、図3は開口を閉じた釣竿ケースの拡大断面図である。

##### 【0010】

図1から図3によると、釣竿ケース1は、内部に釣竿Tを収納可能な空間からなる収納部4を有する筒状のケース本体2を有し、このケース本体2の下側の接地部に皿状の底部5が取り付けられている。

20

##### 【0011】

ケース本体2は、エチレン酢酸ビニル共重合体やポリウレタン等の合成樹脂（発泡合成樹脂を含む）の板材や合成樹脂の板材に合成樹脂の織布やコーティング等による化粧層を内面2cや外面2bに貼着して形成した可撓性を有する板状の外装体2aを筒状に湾曲させることで形成し、その下端側を皿状の底部5に差し込んで取り付けられている。

##### 【0012】

ケース本体2は、釣竿が収納しやすいように上下に長い筒状に形成され、湾曲させた外装体2aの左右両端側が向かい合わせ状に配されて形成され、ケース本体2の上端側から底部5までの下端側に至る長手方向に延びる開口3が形成されている。

30

なお、ケース本体2の外装体2aは一体に形成したもの他に、複数の材料（複数の外装体）を繋ぎ合わせて形成したものでもよく、また、ケース本体2はケース本体2を形成する外装体2aに囲まれた内部に釣竿の収納空間である収納部4を有していれば筒状とする。

##### 【0013】

開口3は、その両側に互いに係合可能なチャック（スライドファスナ）6、6が設けられており、引き手を有するスライダー6aを開口3の長手方向に移動操作することによって開閉できるようになっている。

##### 【0014】

ケース本体2の外装体2aは可撓性を有しその弾性に抗して湾曲させているため開口3は開く方向に付勢されており、図1、図2のようにチャック6、6の係合を解除すると開口3の両側は離間して開いた状態が維持される。

40

また、開く方向に付勢された開口3を閉じるときは、この付勢力に抗してチャック6、6を係合させることとなる。

##### 【0015】

ケース本体2の収納部4の内面2cには釣竿保持部7が設けられている。

釣竿保持部7は、独立気泡や連続気泡を有する発泡合成樹脂や発泡ゴム等の柔軟性や伸縮性を有する発泡材で形成されている。

##### 【0016】

図2のように釣竿保持部7は、中央側にケース本体2の長手方向と交差する断面にてV字状の切り欠きが設けられ、その切り欠きの内側に釣竿Tを左右から狭持する一对の狭持

50

部 7 a、7 b が形成され、V 字状の切り欠きからなる狭持部 7 a、7 b は奥で互いに接続され、また、釣竿差し込み口 7 e が開口 3 側に形成され、釣竿保持部 7 の伸縮により開閉可能となっている。

さらに、狭持部 7 a、7 b には釣竿 T を確実に保持するために溝 7 d が上下方向に複数本形成されている。

そして、釣竿保持部 7 の外側 7 c はケース本体 2 の収納部 4 の内面 2 c に合致して形成し、内面 2 c にその周方向に沿って取り付けられ、釣竿保持部 7 は、ケース本体 2 の収納部 4 の内面 2 c に上下方向に間隙を設けて複数個設けられている。

#### 【0017】

このように形成した釣竿ケース 1 に釣竿 T を収納するときは、図 2 のようにチャック 6、6 の係合を解除して開口 3 を開放状態とすると、開口 3 の拡開されるように変形する動きに連動して、ケース本体 2 の収納部 4 の内面 2 c に取り付けられた釣竿保持部 7 の外側 7 c が周方向に拡開されるように変形する。

これによって、狭持部 7 a、7 b 間の間隙が左右又はケース本体 2 の周方向に広がり、釣竿差し込み口 7 e が開放状態となって釣竿 T を狭持部 7 a、7 b の間に配することが出来るようになる。

この時、狭持部 7 a、7 b は溝 7 d を有し釣竿 T が狭持部 7 a、7 b の間から脱落することを防止している。

#### 【0018】

釣竿 T を狭持部 7 a、7 b の間に配した後に、図 3 のようにチャック 6、6 を係合して開口 3 を閉じると、ケース本体 2 が図 3 のように断面で円形状を成し、の収納部 4 の内面 2 c に取り付けられた釣竿保持部 7 の外側 7 c が、ケース本体 2 の開口 3 の閉塞操作でケース本体 2 が周方向に縮径されるように変形する動きに連動して狭持部 7 a、7 b が互いに接近し閉じられるように変形し、狭持部 7 a、7 b の間に配された釣竿 T を狭持部 7 a、7 b で狭持して釣竿保持部 7 にて保持することができる。

#### 【0019】

釣竿保持部 7 は、柔軟性や伸縮性を有する発泡材で形成されているため狭持した釣竿 T の径に合わせて保持するため径の異なる釣竿 T を確実に保持でき、しかも、釣竿 T をその伸縮性によって押圧して狭持するため釣竿ケース 1 運搬中に動いてしまうことが防止される。

#### 【0020】

このように釣竿ケース 1 を形成したので釣竿 T を釣竿ケース 1 内の釣竿保持部 7 の狭持部 7 a、7 b の間に配し、ケース本体 2 の開口 3 をチャック 6、6 を閉じるだけで釣竿ケース 1 内の釣竿保持部 7 に保持されるため、釣竿 T を釣竿保持部 7 に保持するための取り付け操作が不要となり、すぐに収納した釣竿 T の動きを規制して釣竿ケース 1 を持ち運ぶことが出来る。

#### 【0021】

また、釣竿 T を取り出すときは、ケース本体 2 の開口 3 をチャック 6、6 の係合を解除して開くだけで、ケース本体 2 が拡開するように変形する動作に連動して釣竿保持部 7 の狭持部 7 a、7 b が拡開されるように変形し、釣竿差し込み口 7 e が開放状態となって釣竿 T を釣竿保持部 7 からの取り外し操作をしなくても容易に取り出すことが出来る。

#### 【0022】

なお、実施例では、釣竿保持部 7 に V 字状の切り欠きを設けて狭持部 7 a、7 b を形成したが、釣竿保持部 7 を複数に分割してそれぞれに設けた狭持部が開口 3 の開閉に連動して釣竿を狭持するようにしてもよい。

また、開口 3 のチャック 6、6 はスライドファスナとしたがこれに限らず面ファスナなどを用いてもよい。

#### 【産業上の利用可能性】

#### 【0023】

本発明は、釣竿ケース全般に利用できる。

10

20

30

40

50

## 【図面の簡単な説明】

【0024】

【図1】図1は、釣竿ケースの全体図である。

【図2】図2は、開口を開いた釣竿ケースの拡大断面図である。

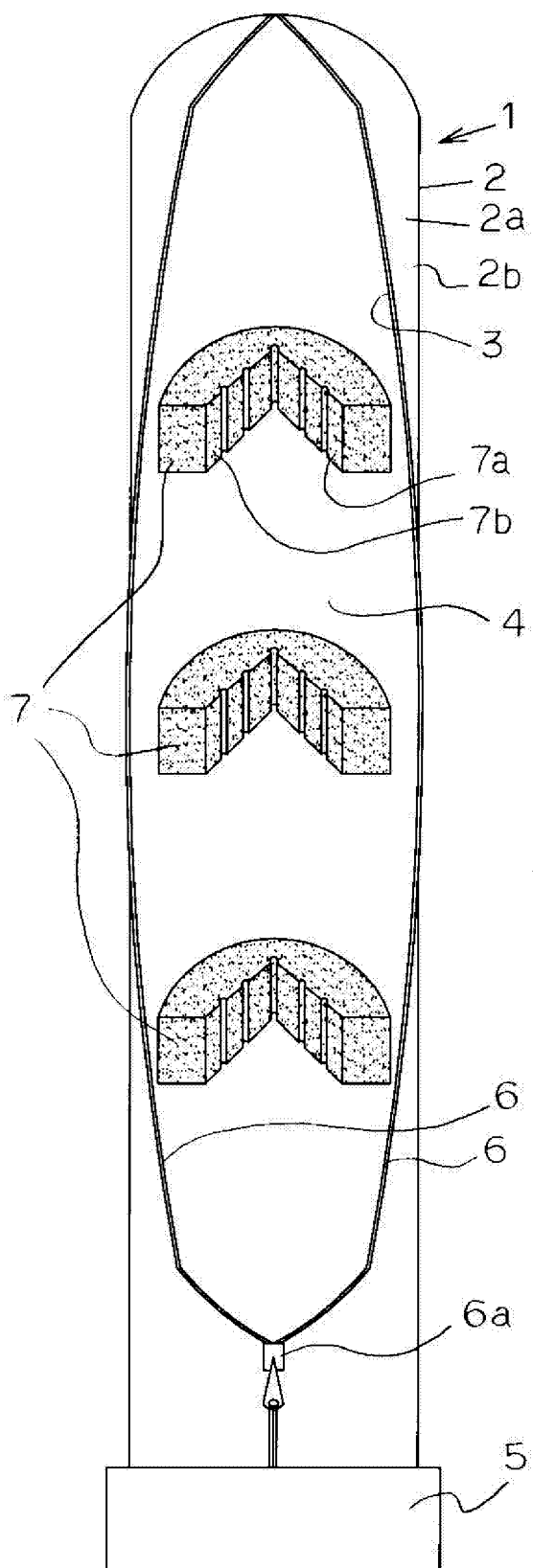
【図3】図3は、開口を閉じた釣竿ケースの拡大断面図である。

## 【符号の説明】

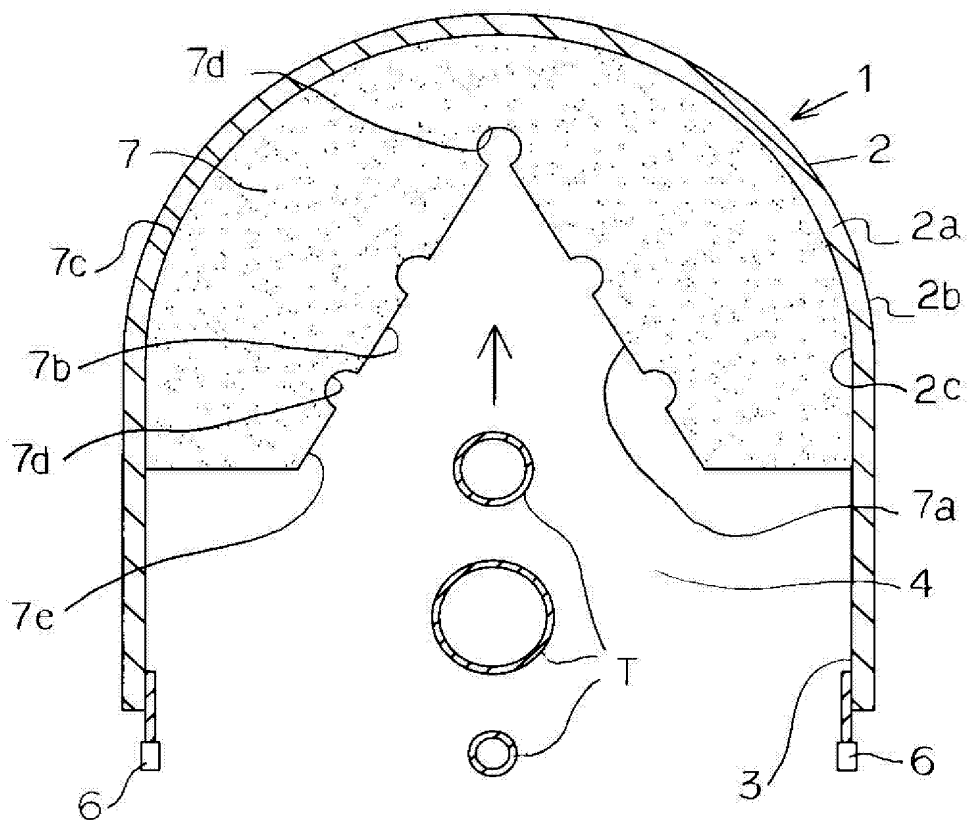
【0025】

- 1 釣竿ケース
- 2 ケース本体
- 3 開口
- 4 収納部
- 6 チャック
- 7 釣竿保持部

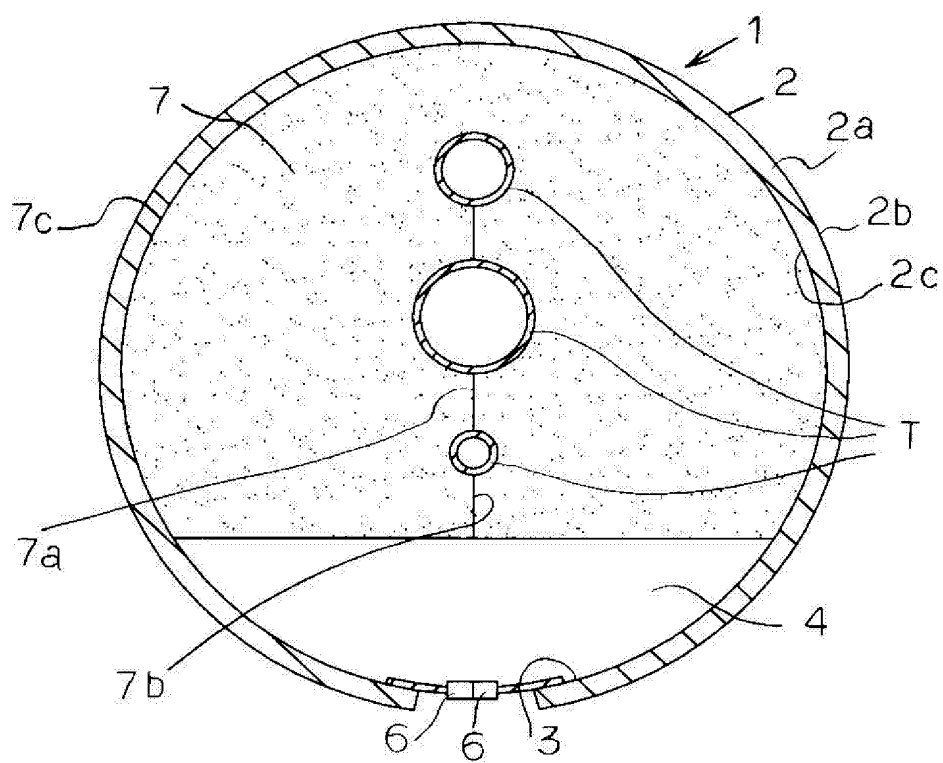
【図1】



【図2】



【図3】



**PAT-NO:** JP02008136408A  
**DOCUMENT-IDENTIFIER:** JP 2008136408 A  
**TITLE:** SPINNING ROD CASE  
**PUBN-DATE:** June 19, 2008

**INVENTOR-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
SOMEYA, KYOSUKE	N/A

**ASSIGNEE-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
DAIWA SEIKO INC	N/A

**APPL-NO:** JP2006325030  
**APPL-DATE:** November 30, 2006

**INT-CL-ISSUED:**

<b>TYPE</b>	<b>IPC</b>	<b>DATE</b>	<b>IPC-OLD</b>
IPCP	A01K97/08	20060101	A01K097/08
IPFC	A45C11/00	20060101	A45C011/00

**ABSTRACT:**

PROBLEM TO BE SOLVED: To solve the problem wherein the operation for attaching a spinning rod to a rod supporter, for making the spinning rod



interposed in between zipper sheets disposed in a case body and then closing the zipper, is troublesome.

SOLUTION: This spinning rod case 1 has flexible cylindrical case body 2 having a receiving portion 4 for a spinning rod T therein. The case body 2 has an opening 3 which is openable with the zipper 6, 6 and is extended in the longitudinal direction; a spinning rod-holding portion 7 having spinning rod T-nipping portions 7a, 7b formed from a foamed material, is attached to the inside 2c of the receiving portion 4 of the case body 2; and the nipping portions 7a, 7b open or close in association with the opening or closing of the opening 3 of the case body 2.

COPYRIGHT: (C)2008,JPO&INPIT